

役割分担を明確にしたデンタルセンターでの歯周病専門医としての見解

築山 鉄平

福岡県 福岡審美歯科 インプラント 再生医療センター センター長

講演抄録

抜歯非抜歯の判断決定はその後の治療予後が最優先事項であり、保存の見込みが無い歯牙は当然「必然的抜歯」が必要であるが、必ずしも保存不可能でない歯牙を抜去する「戦略的抜歯」することもある。しかしいずれの抜歯基準に関しても絶対的なガイドラインは存在せず、様々な影響因子を考慮して「抜歯」という結論にたどり着くものである。

また 1981 年、Brånemark らが発表したデンタルインプラントの高い成功成績からインプラント補綴が欠損補綴における重要な役割を果たすだけでなく、その長期的に **predictable** な予知性から歯牙保存の意思決定にも大きな影響を及ぼしている。

抜歯判断に影響を与える要因として例えば以下のような項目が挙げられる(modified from Lundgren et al. Periodontology 2000, 2008;47:27-50)。

- 歯周病の程度と進行度(全身疾患、喫煙も含む)
- 補綴的考慮点
- 機能性や審美性に対する要求
- 診療所のメンテナンス環境と患者のコンプライアンス
- 施術者の知識と技術(テクニカルや生物学的失敗に対する危険因子)
- 治療の複雑さ、費用
- 患者の年齢、口腔に対する健康観
- 診療制度(包括制? 出来高制? 完全自由診療?)

私は厳格なメンテナンスをベースとした診療所で、専門分野に特化した歯周病専門医として臨床を行っており、そのような立場から上記項目を踏まえた上で歯牙の抜歯か保存かの判断基準を議論していきたいと考えている。